

緑のセンターだより

NO.96 平成19年3月1日発行

発行元:(財)札幌市公園緑化協会
豊平公園緑のセンター

アデニウム

キョウチクトウ科 Adenium 属(アデニウム属)

「砂漠のバラ」、英名デザートローズで知られるアデニウムは、熱帯東アフリカからアラビア半島に十数種が自生する、幹がとっくり状に肥大する低木～灌木状のエキゾチックな熱帯花木の多肉植物です。主な種類はオベスム(*A. obesum*)やボエミアヌム(*A. obesum* ssp. *boehmianum*)などです。

自生地では乾生植物として育ち、高さ5mに達しますが、鉢植えでは約30～50cmくらいの小型木本です。枝はよく伸び枝の上部に倒卵形または長方形倒卵形で長さ約10cmの全縁肉質の葉を互生します。花は直径5～7cmの美しい花が茎頂に散房花序をなしてつけ、基部は白い花筒をもち、先は5裂状に平開します。花被裂片の内側の縁は濃紅色で、中心部へいくにしたがって白くなります。花の形態は合弁漏斗状で、花色は淡紅色、鮮紅色、白色などで種類によっては覆輪状になるものもあり、自然気温では6～9月にかけて開花しますが、日照と温度のある室内栽培では早春の2月から晩秋の11月まで開花を繰り返します。

属名のアデニウムは「腺」、種小名のオベスムとは「ふくれ」という意味があり、「肥大した幹」を表すといわれます。最近幹の基部がとっくり状に膨らむ奇形とも思えるユニークな株を見かけますが、これは実生から育てた株でのみ見られる形態です。挿し木や取り木など栄養繁殖で殖やした株は太い茎が肥厚して柔らかな感じがしますが、基部が膨らむことはありません。

美しい花にも樹液にはアルカロイド性の有毒成分を含む、毒性植物の一つです。普通に栽培する上では問題ありませんが、誤って樹液を口にしないよう注意が必要です。

海外の観光地、東アフリカでは庭園樹として、タイでは樽植えなどのコンテナ栽培を見かけますが、日本では温室などでの施設や暖かい室内での鉢栽培が一般的です。

栽培の要点は①日光に十分当てる、②生育適温は25～30℃の高温で、③水やりは控え乾燥ぎみに、④花後にはコンパクトに切り戻すなどです。

増殖は実生繁殖と栄養繁殖が用いられます。簡単な方法は、茎頂を長さ8～10cmに切り、活力剤液で水あげしてから赤玉土と軽石の挿し木床に挿してビニールで覆い保温すると容易に発根します。適期は春から夏です。発根したら赤玉土、腐葉土、軽石などの混合土で鉢上げし、肥培すると2～3年で開花株になります。(T.K.)



3月園芸作業

このコーナーの園芸作業は札幌地方での目安です。ここに掲載した以外の作業もたくさんありますので、ご不明の点などは緑の相談までお気軽にお問い合わせください。

緑の相談受付 10:00～12:00、13:00～16:00

☆豊平公園	811-9370	月曜以外毎日
☆百合が原	772-3511	水・木・土・日
☆平岡樹芸センター	883-2891	冬期閉園中

◆果樹の冬季剪定

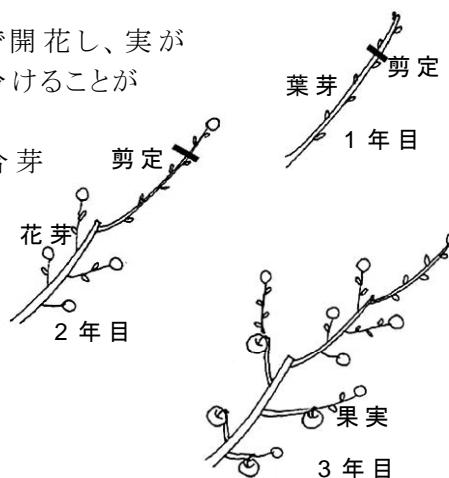
《剪定の目的と効果》

果樹は、どんな樹種でも自然の成長にまかせておくと、樹は高く、樹幅も広がって大木になり、枝が混んで樹冠の中まで日光が当たらなくなります。すると樹冠内部の枝が弱り、花芽が着かず、果実がならなくなり、そのうちに枝が枯れ、開花して結実する枝は樹冠の外側だけになってしまいます。一に剪定、二に防除、三に肥培と言われ、剪定は果樹づくりの中でも最も大切な技術となります。

剪定の目的は・・・

- 樹の高さや幅を制限し、ほかの果樹や庭木の生育と調和のとれた樹形づくりをする。
- 樹の大きさを制限することによって、摘果や薬剤散布、収穫などの手入れをしやすくする。
- 樹冠の中まで日当たりを良くし、品質のよい果実を毎年安定して収穫する。
- 各枝への養分を均一にして、樹勢を維持する。
- 樹幹内の風通しをよくして、病害虫の発生を少なくする。

リンゴの結果習性 と剪定



《結果習性》

果樹類は、種類によって花芽がいつ、どこに付き、どのような状態で開花し、実がなるかということは決まっています。これを結果習性といい、次のように分けることが出来ます。

◆前年の伸長した枝の芽が、今年わずかに伸び、その先端に混合芽

(リンゴでは、一花芽中に数個の花と10枚の葉、1~2本の枝を持つ)を形成し、翌年、新梢を少し伸ばして、その先端に開花・結実するもの)

リンゴ、ナシなど。

◆前年の新梢の葉の付け根に花芽(花だけの芽で、葉や枝を持たない)を形成し、今年その芽が開花・結実するもの。

ウメ、モモ、サクランボなど。

《剪定の時期》

リンゴ、ナシ、ウメ、モモ、サクランボなどは休眠期に当たる3月上旬～4月上旬に行うのが、もっとも適しています。ただしブドウは、この時期の剪定は厳禁です。

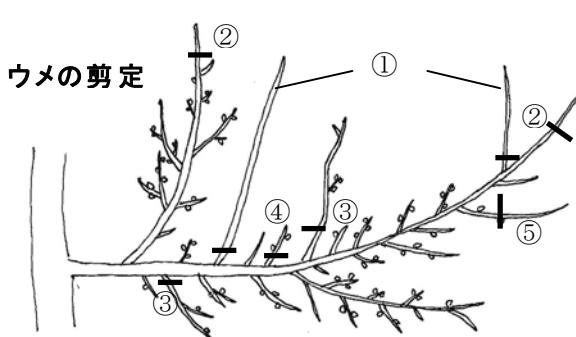
《剪定の種類》

◆間引き剪定

枝の付け根(基部)から切る剪定。込み過ぎる枝、徒長枝などの不要な枝を除くための剪定。

◆切り戻し剪定

側枝、発育枝の先を切って、枝に刺激を与え、枝の成長、分枝を促す剪定。



《剪定の要領》

①徒長枝(幹や枝からまっすぐ天に向かって勢い良く伸びている枝。
付くのは全て葉芽)

(場合によっては株の姿を整えるために徒長枝をいかす)

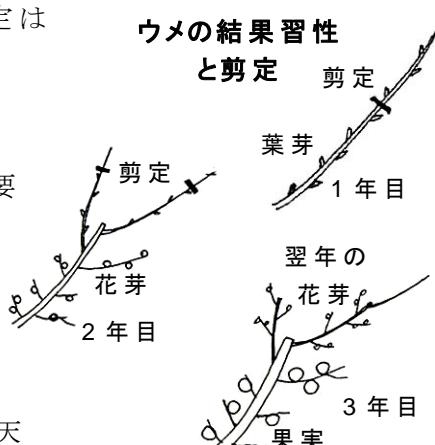
②発育枝先——1/3 切り戻す。

③古い結果枝(付け根に芽がないもの)——間引き剪定。

④枯死した結果枝——取り除く。

⑤長果枝(花芽少ない)——1/4～1/3 に切り戻す。

ウメの結果習性 と剪定



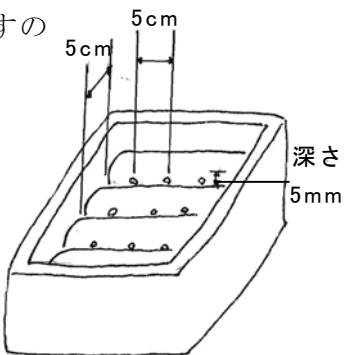
長ネギの苗作りにチャレンジ!

8月中旬の早どり長ネギを作つてみましょう。

一般には苗を園芸店などで購入して植えれば良いのですが、苗作りはそれほど難しくありませんし今の時期は特に畑作業もありませんので、生育を楽しみながら苗作りに取り組んでみましょう。8月どりでは、苗作りの期間が約70日必要になりますので、3月15日前後に種をまきます。

用意するもの

- ・発泡スチロールなどの容器 幅30cm、長さ50cm、深さ15cm程度のもの
- ・培養土 約15リッタ (容器に10cmの厚さにいれる)
- ・肥料 化成肥料12-12-12 緩効性90~120日タイプ12g、よう燐10g
- ・種子 550粒 (元蔵、長悦、金長3号など)→品種の確かなもの
- ・ビニールフィルム 50cm×70cm(容器を覆う)

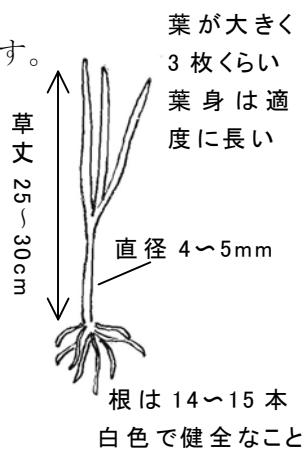


作業手順

- ・種まきの1週間前に土と肥料を全体に混合し容器に入れ、土が十分湿る程度のかん水をし(室内管理のため容器の底に穴は開けない)、ビニールで覆つて地温を上げます。
- ・3月15日頃に種を播きます。容器の幅に合わせて5cm間隔に深さ5mm程度の筋を付けます。
- ・種は5mm間隔に播き覆土し(5mm厚)ビニールで覆います。
- ・容器は居間の出窓などに置いて管理します。15~20°Cで10日前後で発芽します。

管 理

- ・発芽後は20~23°Cで管理、夜温は15°C以上を確保します。
- ・育苗後半は18°C前後で管理します。
- ・目標温度が確保できれば、ビニールの覆いは除きます。
- ・仕上り苗は草丈25~30cm、葉数3~4枚、葉鞘部径4~5mmを目標とします。
- ・日当たりを良くして徒長しないように管理します。
- ・生育中に葉の色があせてきたら液肥を与えます(1000倍)。
- ・定植は5月下旬頃に行います。15cm程度の溝をきり、直立植えにします。
- ・根は白色で14~15本あることが目安です。



緑の相談 Q&A

Q 果樹類の中には、苗木や若木の間はあまり病害虫の発生もなく、植えてから3~5年の間は収穫ができますが、成木、老木になるにつれて病害虫の発生が多くなり、やがてほとんどが病害虫に侵されて良い果実が収穫できなくなり、著しい場合は枯れてしまうと聞きました。これを防ぐための薬剤散布の方法を教えてください。(豊平区Nさん)

A 一年生の草花や野菜、また多年生の植物でも始めは病害虫に病菌や害虫が飛来しなければ病害虫に侵されることはありません。果樹類でも苗木や若木の間には病害虫はほとんど発生しません。

したがって、草花や野菜、苗木などの場合は栽培場所の衛生管理に努め病菌や害虫の発生源を少なくし、発生が予測される場合には予防措置を行えば良いのです。

果樹などの樹木は成木や老木になると他の場所から飛んでくる病害虫の他に、耐久態(寒さに耐える形態)で幹、枝、芽などに着いて越冬しているものがあり、萌芽、新梢の発育に伴い増殖態になって寄生加害するものが多くなってきます。(腐乱病、胴枯れ病、縮葉病、カイガラムシ、ダニなど)

このように耐久態で越冬している病害虫は通常の防除では防ぐことは難しく、休眠期に入った秋(11月下旬~12月上旬)と春の休眠が終わる頃(4月上旬~中旬)に行う休眠期防除が有効で、春の防除は特に重要です。

<休眠期の防除>

病気と害虫には石灰硫黄合剤8~10倍液(樹種により20~30倍液に展着剤を加えて)を枝先から株元まで十分に濡れるように散布します。濃度が低かったり量が少なかつたりすると効果が出ないこともあります。専業の果樹地帯では、害虫のみが対象の場合はマシン油が用いられることがあります。

